

主題	福祉用具を積極的に活用することによる利用者と職員双方の負担軽減効果について
副題	2つの技術と5つの福祉用具と床走行リフトの導入による統一した移乗方法の確立

移乗介護	チームケア	研究期間	8か月
------	-------	------	-----

事業所	練馬区社会福祉事業団 富士見台特別養護老人ホーム		
発表者：櫻本 淳（さくらもと あつし）	アドバイザー：		
共同研究者：江波戸由利、古澤千恵、加地菜々美、松本正美、帆角明子、佐々木智孝、前川翠			

電話	03-5241-6010	E-mail	Fujimi-tokuyoh@nerima-swf.jp
FAX	03-5241-1760	URL	http://www.nerima-swf.jp

今回発表の事業所やサービスの紹介	緑の多い閑静な住宅街に位置する56床の従来型多床室の施設です。施設内には地域包括支援センター支所、通所介護事業を併設しています。近隣は練馬区内一番の高齢化地域です。施設は、認知症になっても安心して暮らせる地域の核になれるよう、施設内事業が連携、協働しての運営に取り組んでいます。
------------------	---

### 《1. 研究前の状況と課題》

利用者の生活を支え、生活リハビリの実施のため日中帯は利用者の多くがトイレの使用、食事のための離床や椅子移乗などで、移乗介助の回数が多く利用者と職員双方の負担となっていた。移乗介助が要因かと思われる内出血などの外傷や事故も発生していた。また、利用者の状態や職員の経験や技術、お互いの体型などにもよって、介護技術だけでは統一した介助を提供するのが困難な状況にあった。腰痛の悩みを抱えている職員もあり、労働環境改善の必要性も感じていた。

### 《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

①利用者と職員の双方にとって安全で安心できる移乗方法の確立。②利用者個々に適した統一された介助の提供。③移乗介助が要因の事故防止。④労働環境の改善。以上の4点が達成することを期待して、介護技術向上委員会が中心となり各専門職が協働し、改題解決

に取り組んだ。

### 《3. 具体的な取り組みの内容》

＜対象者＞

全利用者 50 名の中で移乗介助が必要な方を対象とし、実際に取り組みを実施した方は取り組み期間中に退所された方を含めると約 20 名となった。

＜取り組んだ内容＞

・床走行リフトを含む福祉用具のデモによる選定と見直し、全介護士への伝達研修。リフト対象者の選定。・新任職員への介護技術研修の実施。・利用者の意向確認と移乗介助方法の決定と周知。・経過のモニタリングと新規課題への対応。

＜取り組み期間＞

平成 25 年 10 月～平成 26 年 6 月

＜取り組み職員＞

施設長、介護職員 27 名、看護師 5 名、リハビリ 1 名の合計 34 名。中心職員は、介護技

術向上委員会（介護士 4 名、看護師 1 名、リハビリ 1 名）の 6 名。

＜経費等について＞

床走行リフト 2 台：81 万円（定価）、スリングシート 4 枚：19 万 1 千 9 百円（定価）、平行移乗用ボード、スライディングボード、スライディングシート、立位補助機。

＜活動のポイント＞

職員が実際に対象者になりきって自ら体験することで、福祉用具の使用上の留意点や介護の際のポイントが理解できた。

施設長をはじめ、施設全体での取り組みで課題解決などがスムーズに行えている。

#### 《4. 取り組みの結果と考察》

①利用者 と 職員 の 双方 に とって 安全 で 安心 できる 移乗 方法 の 確立 は、トランスファー技術 だけでは 困難 であつた 事例 を リフト などの 福祉 用具 を 活用 した こと に よつて、今 まで 抱え られる こと で 表情 が 険し くなる、身体 に 緊張 が できる など して いた 利用者 であつても、リラックス した 状態 で 移乗 できる よう に なつた。

②利用者 個々 に 適した 統一 された 介助 の 提供 は、1 名 を 除いて 福祉 用具 で の 移乗 介助 方法 が 確立 した こと で、全 職員 が 統一 された 方法 で ケア を 提供 できる よう に なつた。その 1 名 に ついても 介護 技術 で の 移乗 を 行つて いる が、新 任 職員 へ の 介護 技術 研修 を 実施 した こと で、統一 した 方法 で の ケア は 提供 でき ている。ご 本人 から も 職員 に よつて 慣れて いない と 感じる こと は ある が、概ね でき ている と の 感想 が 寄せ られて いる。

③移乗 介助 が 要因 の 事故 防止 は、内 出血 など の 外傷 に 関する 事故 件数 が、取 り組 み 前 の 同 時期 と 比較 して 55% の 減少 と なつた。

④労働 環境 の 改善 は、職員 2 名 が 必要 であつた 方が 1 名 で 対応 など の 効率 化、リフト 導入 に より、夜 勤 職員 が 実施 して いた 起床 時 の 移乗 介助 が 楽 に なつた と の 声 が あげ られた。

#### 《5. まとめ、結論》

取 り組 み 前 に 期待 して いた 効果 と 目的 に つ

いては、考 えて いた 以上 の 効果 を あげる こと に 成功 した。特 に リフト 導入 に あたり、デモ 実施 時 に 職員 から 出 て いた 「設 置 に 時間 が かかる」 「逆 に 手間 になる」 など の マイナス 要素 も 使用 を 繰 り返 す こと で コツ など 要領 が 分 かり 解決 でき た。現 在 で は リフト の 増設 を 望む 声 が あげ られて いる。また、利 用 者 の 中 で リフト に 抵抗 を 感じ スライド 移乗 方法 を 選択 された 方 も おり、結 果 と して 自己 選択 を する 機会 と なつた が 職員 が 考 える 方法 が 必ず し も 利 用 者 に とつて より 良い 方法 と は なり 得 ない こと も ある と 改めて 再 確認 する こと が でき た。福祉 用具 を 使用 する こと に 対して、利 用 者 を 物 扱い して いる よう に 感じ られる など の マイナス イメージ を 持 っ て いた 職員 は、実 際 に 自身 で 体験 し 利 用 者 が 使用 して いる 様子 を 見て、考 え を 変 える き っ かけ に する こと が でき た。

#### 《6. 倫理的配慮に関する事項》

本 研究 発表 を 行 う に あたり、利 用 者 の 個人 情報 や プライバシー に 関する 情報 は 使用 して いない が、施設 職員 に ついて は 口頭 に て 確認 を し、本 研究 発表 以外 で は 使用 しない こと、それ に より 不利益 を 被る こと は ない こと を 説明 し、回 答 を もつて 同意 を 得 た こと と した。

#### 《7. 提案と発信》

利 用 者 の 安全 確保 の た め の リスク 回避 を 行 う た め に 個人 に 適した 移乗 介護 方法 の 確立 は 重要 に なり ます。また、今 後 も さ ら に 介護 職員 確保 が 困難 に なる 時代 に なる こと は 明らか です。その なか で 施設 の 財産 と も 言 う べき 経験 を 積 んだ 介護 士 職員 が 安心 して 働 き 続け られる 労働 環境 を 整備 する こと も 必要 不可 欠 と なつて います。本 研究 発表 の 内容 で 利 用 者 と 職員 双方 の 負担 軽減 に 繋ぐ こと が でき ています の で、是非 参考 に して 下さい。

【メモ欄】